



Title	大阪大学低温センターだより No.17 表紙
Author(s)	
Citation	大阪大学低温センターだより. 1977, 17
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/21748
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

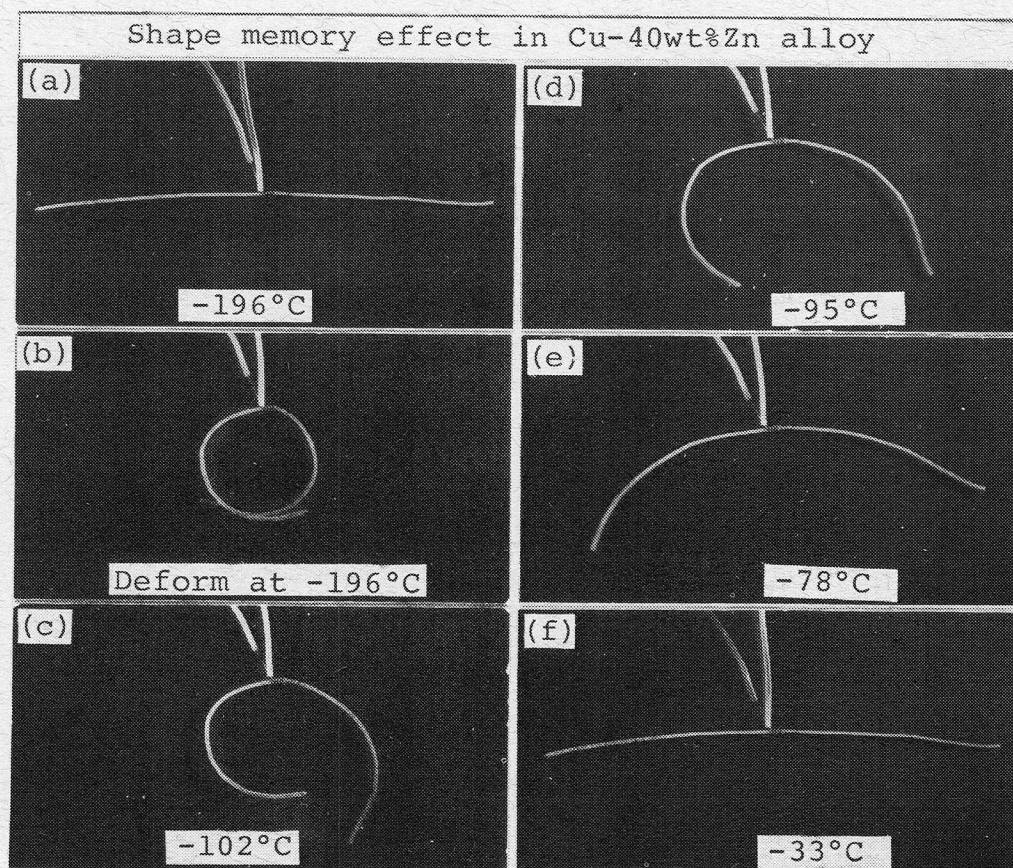
<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

大阪大学

低温センターだより

No. 17



1 cm

1977年1月

目 次

低温実験室の思い出	伊 藤 順 吉	1
-----------------	---------------	---

研 究 ノ ー ト

合金の形状記憶効果

産業科学研究所	清 水 謙 一	3
---------------	---------------	---

シリコン(Si)/金属系にみられるSi原子の低温移動

— Si—Au系を中心として —

工 学 部	平 木 昭 夫	6
-------------	---------------	---

談 話 室

第13回半導体物理国際会議に出席して

理 学 部	邑 瀬 和 生	11
-------------	---------------	----

ICM'76と西欧の磁気学界

基 礎 工 学 部	松 浦 基 浩	16
-----------------	---------------	----

表 紙 写 真 説 明

初めにほぼ真直ぐだったCu—40wt%Zn合金(いわゆる β 真鍮)の棒を液体窒素中で変形(b図)したあと室温に放置すると、昇温して A_s 温度(この場合、約 -120°C)に達するとともに形状が恢復し始める(c) $\rightarrow$ (d) $\rightarrow$ (e)図)。 A_f 温度(この場合、約 60°C)になるとほぼ完全に元の真直ぐな形状に戻る(f図)。このような変形した合金を幾分高い温度に加熱したときに変形前の形状に戻る現象を「形状記憶効果」と言う。(本文3頁参照)